

令和5年度 学校教育目標

加古川市立両荘中学校

- 1 校 訓 「自主創造・共励切磋・感恩奉仕」
- 2 教育目標 「こころ豊かに学びあう生徒の育成」
- 3 指導目標 「自立・共生・貢献」
 - ①自ら求めて学び、主体性のある自己を創り上げていく生徒
 - ②共に励まし、共に磨き合う生徒
 - ③思いやりと感謝の心を持ち、人のために行動できる生徒
- 4 努力目標 「手塩にかけて育てる教育の実践」
 - (1) 学習指導・・・「主体的・対話的で深い学び」による授業を展開し、自己教育力（自ら学ぶ意欲、態度、実践力）を高め、「確かな学力」を育てる。
 - ①基礎学力の充実
 - ・基礎基本の重視 「できる学力」の育成
 - ・家庭学習の習慣化
 - ②個に応じた指導と体験活動の充実
 - ・豊かな心を培う体験学習の推進
 - ・兵庫型学習システムの推進
 - ・総合的な学習の時間の充実
 - ③主体的に学習に取り組む態度（学びに向かう力）や能力の育成
 - ・各教科での言語活動の充実
 - ・「ことばの力」育成プログラムの実践
 - ・トライやる・ウィークでの実践
 - ④生涯学習につながる授業の創造
 - ・協同的探究学習を活用し、「わかる学力」の育成
 - ・学ぶ楽しさ、学習意欲を高める指導方法の工夫
 - ・ICT活用指導力の向上
 - (2) 特別支援教育・・・インクルーシブ教育システムの構築を見据え、特別な支援を要する生徒の自立とキャリア形成を目指す。
 - ①基本的生活習慣の確立

- ・個を生かす、障害に応じた支援（合理的配慮）の推進
- ・効果的な教科学習、交流学习の推進

②正しい理解と啓発

- ・共生社会への正しい認識の強化
- ・保護者との信頼関係の構築

(3) 生徒指導・・・人間的なふれあいを深め、健全な生活態度を養い、生徒の自己探求、自己実現をめざす。

①望ましい生活習慣の定着

- ・自ら高める規範意識の醸成
- ・主体的な学校行事への取り組み
- ・あいさつ運動の推進
- ・家庭、地域社会との連携

②主体的・自治的な学校生活の樹立

- ・励まし支え合う学級づくり
- ・生徒会活動、部活動の充実
- ・生徒指導委員会の充実

③生徒理解の深化と信頼関係の確立

- ・教育相談、生活ノートの活用等による内面理解に基づく指導
- ・訪問指導の強化
- ・不登校生徒への支援（学力の向上を目指す）

④生徒の健全育成

- ・生徒指導体制の充実（報告・連絡・相談の充実）
- ・効果的な補導活動の充実
- ・学校、家庭、地域、関係機関等との連携

(4) 進路指導・・・生徒の主体的な進路選択、進路決定能力を育てる。

①進路指導推進体制の確立

- ・進路指導体制の整備
- ・個人指導資料等の充実と活用
- ・3年間を見据えた進路指導計画の確立

②適切な進路情報の提供と進路相談の充実

- ・進路だよりの発行
- ・個に応じたガイダンス機能の充実

(5) 道徳教育・・・基本的な生活習慣の確立と自律心の育成を図る。

①自己内省を深める「道徳」の充実

- ・思いやり、親切、公德心、生命の尊重等の価値の重点的指導

②魅力ある授業づくり

- ・道徳的実践力を高める指導、「心かがやく」等資料の活用、教材開発

③道徳的実践活動の推進

- ・「心の絆プロジェクト」など実践活動の場、機会の整備
- ・家庭、地域との連携
- ・ボランティア活動の推進と機会整備

(6) 人権教育・・・全教育活動を通して、人を大切にし、自らを大切にする人権尊重の視点に立ち、豊かな人権感覚を育成する。

①人間尊重に徹する人権教育

- ・命の尊さを学ぶ教育
- ・人権感覚の醸成
- ・人権尊重の学校文化の構築
- ・多文化共生教育の推進

②深まりある人権学習の展開

- ・差別解消の課題と展望の明確化
- ・差別を許さない、支え合う学級づくりの推進

(7) 健康・安全教育・・・自他の生命を尊重して、生涯にわたって健康で安全な生活を送ることができる態度と実践力を育てる。

①基本的な生活習慣の確立

- ・家庭との連携
- ・喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育の充実
- ・生きる力を育むための性教育の推進

②食育の推進

- ・指導体制の確立と指導内容の充実
- ・家庭・地域との連携

③体力・運動能力の向上

- ・新体力テストの効果的な活用
- ・ウェルネス手帳の活用
- ・部活動の充実

(8) 防災教育・・・災害に対する正しい知識や技能を身につけ、適切に判断し、主体的に行動できる実践力を育成する。

①防災教育・防災体制の充実

- ・学校防災マニュアルに基づく訓練の実施
- ・自助、共助の実践意識の向上
- ・ボランティア活動の推進

②学校安全に関する校内体制の整備

- ・校内安全点検と事故防止指導の充実
- ・学校危機管理マニュアルの点検整備
- ・通学安全指導の徹底（自転車安全教室の実施）

(9) 福祉教育・・・全教育活動を通して、福祉への理解と関心を高め、命の大切さ、他を思いやる心や共に生きる心を培う。

①福祉教育推進体制の確立

- ・福祉に対する心と実践力の育成

②地域との連携の推進

- ・ふれあい交流学习の推進

(10) 環境教育・・・環境に対する豊かな感性を育て、課題解決に向けた実践的態度を養う。

①環境教育指導計画の充実

- ・各教科、総合的な学習の時間への位置づけの明確化
- ・人と自然のふれあいを大切にした環境教育の推進
- ・身近な課題から地球規模の課題へ、関心意欲を深化

②環境整備の実践力を育成

- ・学校・教室等の環境整備
- ・地域の環境整備

(11) 国際理解教育・・・国際社会に生きる日本人としての自覚と、共に生きる豊かな心を育てる。

①日本の文化・伝統の理解

- ・文化、伝統等の体験活動の推進
- ・視聴覚機器、情報機器の活用

②世界の国々の文化・生活・習慣の尊重

- ・外国人とのコミュニケーション能力の育成
- ・国際交流の推進

(12) 研修活動の充実・・・教職員としての資質と実践的指導力の向上に努める。

①資質・指導力の向上

- ・研修計画、内容の充実
- ・専門性の深化
- ・研修への積極的参加
- ・望ましい教育環境づくり

②信頼される教師に

- ・豊かな心と人間性の涵養に努める。
- ・師弟同行

③個人情報管理徹底

- ・危機意識の保持
- ・施設・設備・備品管理の徹底

令和5年度 学校経営方針

加古川市立両荘中学校

1 学校経営の基本方針

本校は、歴史と伝統に支えられた学校であり、そこには、脈々と受け継がれてきた本校への地域や家庭の思い、これまで携わっていた教職員の思い、また何よりも、生徒自身の熱い思いが込められている学校である。いつも時代の変化を見つめ、新しい歴史を刻み、時代にふさわしい飛躍を遂げてきた未来を拓く学校である。

令和6年開校予定の「加古川市立義務教育学校 両荘みらい学園」は、この地で、また新しい歴史と伝統を創る学校であり、まさしくその名のとおり「みらい」にはばたく子どもの育成を担う学校であり、地域の思いが存分に込められた学校となる。

そのような義務教育学校になるためには、この両荘中学校が長年かかって見出してきた教育的価値や教育的意義を背景にもちながら、新しく発展していくことが、我々のみならず、この学校にかかわってきた先人たちの願いであろう。

これらを考え、「発展しつづける両荘中学校」をめざして、昨年度はさまざまな教育改革が進む中で、「不易と流行」を踏まえ、さらに魅力ある両荘中学校の実現を目指し、「こころ豊かに学び合う生徒の育成」を教育の基盤としながら、世界で起こる様々な危機、とりわけ、欧州での痛ましい戦争等を踏まえた平和教育や持続可能な開発目標SDGsへの取組、あるいは、LGBTq+など多様な価値を認め合える集団づくり、「自分たちの学校は自分でつくる」といった自治意識のもつ学校づくりなど、これまでの枠にとらわれない取組を精力的に進めていただいた。今年度も、そのスタンスは大切にしたい。

両荘中学校ラストイヤーの令和5年度、もっとも配慮を要することは、両荘中学校の最後の卒業生となる76回生(中3)と両荘みらい学園1回生(77回生・中2)、2回生(78回生・中1)の間に溝をつくらないことである。生徒を取り巻く環境は、否が応でも両荘みらい学園の話題がますます増えてくるであろうし、開校準備にかかる新校歌練習や式典準備練習なども増えてくることが予想される。そのような中、76回生は閉じてゆく学校の最高学年という位置づけだけではなく、両荘中学校のよき伝統を次の新学園につなげる伝達者・伝道師としての位置づけで考えたい。生徒の思いにも寄せ、いわば、3学年できちんと両荘中学校を閉じ、3学年で新しい学園の雰囲気づくりを大切にしていきたい。

2 目指すもの（目指す3つの姿）

（1）目指す（期待する）生徒像・・・「自ら考え、行動する生徒を育てる」

永きにわたって築き上げられた伝統に基づく校風に支えられた自覚と誇りを持たせる。

- ・基礎・基本を身につけている生徒
- ・きまりを守り、相手の立場になって考え、互いに協力し高め合える生徒
- ・素直、感謝の心を持ち、人や社会のために役立つことができる生徒

（2）目指す学校像・・・「生徒のための学校をつくる」

生徒、保護者はもとより、地域や教職員にとって魅力ある学校づくりをめざす。

- ・整備された潤いのある学校
- ・生徒や保護者に信頼される安心・安全な学校
- ・地域と連携し、地域に開かれた学校
- ・多様な価値観を認め合える学校
- ・グローバルな人類共通の開発目標

（3）目指す教師像・・・「生徒一人ひとりを大切にする」

さまざまな課題に適切に対応し、生徒を理解し、情熱あふれる教師を目指す。

- ・生徒理解に徹する教師
- ・常に意識を改革し、資質向上を図る教師
- ・使命感にあふれ、人間性の涵養に努める教師
- ・一層の研鑽に励み、保護者や地域からの負託に応える。

3 3つの実践・5つの対応

（1）3つの実践

①共感する姿勢を培う。

- ・教師の資質の一つである「共感する姿勢」は、目の前にいる生徒の心情を読み取り、その心情に的確に対応できる力である。
- ・この資質は、「授業」という教師と生徒の真剣なやりとりの中から培われていく。常に「共感する姿勢」を意識しながら授業を展開する

②成就感・存在感・所属感を味わわせる。

- ・「自尊感情」を高める基礎となるのは、自らの目標に向かって努力し、達成できたという成就感である。成就感は生徒の存在感を高め、自信へと繋がる。一人ひとりを生かし伸ばすために、体験的な学習や活躍する場を与え、成就感・存在感・所属感を持たせる。

③自己決定の場を設定する。

- ・生徒が夢を持ち、自己実現に向け努力する中で、意志をはっきりさせなければいけないときがある。適切な支援や指導を行い、生徒の主体的判断による実行力を育てる。

(2) 5つの対応 **さしすせそ**

- ①最悪を想定した対応
 - ・「きっと大丈夫」「いままでは大丈夫だった」は危険
- ②慎重に対応
 - ・雑な対応は、後々、ほころびがうまれる
- ③素早い対応（早期発見・早期対応）
 - ・状況把握の工夫を
 - ・できるものは今すぐ
 - ・指導結果の確認を確実に
- ④誠意をもって対応（言葉の後ろにある思いを理解する）
 - ・誠実、親切、相手の身になって
 - ・電話で済ませず、足をはこぶ
- ⑤組織で対応（チームとして機能する）
 - ・一人で抱え込まない
 - ・報告・連絡・相談の徹底

みらいを切り拓く「RYOSO5」

R espects	人を大切にしよう
Y ouths	いつも元気が一番
O bjectives	目標は自分を変える
S trive	努力しよう
O neself	「らしさ」は忘れない